

本はいま

仏、給水所にワイン!?

面白マラソン記事

「富士山には一度登った方がいい」。再三にわたる親友の勧め。善意で勧めてくれたのだが、正直、山頂から駆け落ちそうになる体験など二度とごめんだ。その親友が最近「フルマラソンにも一度出た方がいい」と勧める。心配になりマラソンの実態を探る今日このごろ。

2月に東京マラソンをテレビ観戦。レース展開より解説者にハラハラした。女子マラソン界のパイオニア増田明美さんが解説の途中で突然、「海外の大学で研究をされている大事な方が」と尾崎好美選手の恋話を暴露したのだ。「週刊新潮」(3月7日号)によれば、増田さんは選手を海外合宿先に訪ね、一緒にご飯を食べ、情報を入手するとか。

テレビ中継が映さない東京マラソンの「裏側」を紹介するのは「週刊ポスト」(3月15日号)。スタート



マラソン関連記事を掲載した雑誌

靖国通りが交差する新宿大ガード下にあること。仮装ランナーの中でも毎年話題となる十字架を背負ったリフト風ランナーがとあるロックバンドの男性ボーカルであることなど、雑学を伝授してくれる。

「週刊朝日」(4月12日号)は世界中の面白マラソンを紹介。例えば、フランスのワインの名産地でブドウの収穫期前の9月上旬に開催される「メドック・マラソン」。コース沿いの景色も魅力的だが、給水所ではワインやチーズが出され、レース後半には生がきやステーキ、デザートも並びフルコースが味わえる。エントリー料は約9500円。

生涯の記念として出場する一度だけのフルマラソンなら、薄暗い新宿のガード下より、青空の広がるフランスのブドウ畑での「爽快感」を選びたい。

(雑誌タチヨミスト・橘しんじ)

河合蘭著「卵子老化の真実」

竹内久美子著「本当は怖い動物の子育て」